

序

本書は、2014年5月30日に立教大学で開催した文学部史学科世界史学専修主催の公開講演会「ヨーロッパ、海域、そしてユーラシア：近代以前の世界」にご登壇いただいた佐藤彰一氏（日本学士院会員・名古屋大学名誉教授）と深沢克己氏（東京大学大学院教授）の講演をもとに、まとめたものです。

両氏はいずれも国際的に著名な研究者であり、日本の西洋史学を牽引されてこられました。講演会では、これまでの研究蓄積を踏まえ、ヨーロッパ世界と海域、そしてその先に広がるユーラシア世界との関わりという観点から、従来のヨーロッパ像をどのように読み替えていくのかをお話いただきました。当日は、両氏の視野の広さ、関心の深さに来場者ならびに主催者側の史学科教員も、大きな知的な刺激を受けました。

講演会の共催として、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成」プロジェクトが名を連ねています。また、当該プロジェクトの研究代表の上田が、司会を務めました。このプロジェクトは、近年の海域アジア史の研究の進展を踏まえつつ、これまでの歴史で対象とされてきた「地域」を相対化する「海域」をいかに認識するか、さらに政治学や文化学、観光学などの知見を生かしながら、将来に向けてどのようなヴィジョンを描き出すか、というテーマに挑んでいます。対象は主に、日本で従来「南洋」と呼ばれていたインド洋・南シナ海・太平洋です。一見するとヨーロッパとは関係がないように思われるかも知れません。しかし、両氏の講演を拝聴するなかで、これらの海域をヨーロッパから俯瞰したらどのように見えるのか、ある

いは地中海で培われたヨーロッパの海との関わり方が、近代以降の「南洋」の再編にどのような影響を与えたのかなど、多くの思索の手がかりを得ることができました。

本書を手にとられた読者もまた、世界史認識の新たな視座を得られるものと思います。

立教大学文学部史学科世界史学専修教授
アジア地域研究所所長

上田 信